3年　E班　波吉和夏菜

子どもと自然をつなぐ「関心」の入り口

1，研究のテーマ

テーマは子どもたちの環境問題への関心を高めることである。特に、講演会などの学習体験ではなく、遊びの中や自然に直接触れる体験を通して、自然と子どもたちが環境について考えるきっかけをつくることを重視して活動を行った。

2，調査活動の経過と概要

ヒアリングで現状把握&関係作り

↓

環境関連イベント参加&比較

↓

環境関連イベントの企画・実施

↓

パンフレット作成・配布

3，調査活動の成果

（1）環境関連イベントの企画・実施

遊びを通して子どもたちが環境問題に興味を持つきっかけをつくることを目的に、「海ゴミ」をテーマとして実施した。会場には「海ゴミ釣り」「海の生き物お絵かき」「ビーズ工作」「展示・クイズ」のブースを設置し、参加者が自由に回れる形式とした。来場者数は約250名であった。

（2）パンフレット作成、配布

パンフレットは、より多くの子どもたちに自然に触れるきっかけを届け、環境問題への関心につなげることを目的に作成・配布した。内容は、嶺北地域にある親子で自然を体験できるスポットを紹介するもので、足羽山公園や内水面総合センターなどを掲載した。配布は、エルパやエンゼルランドなどで行った。

4、結果と考察

1）環境関連イベント

結果

・体験型ブースや実物を用いた展示が効果的

・保護者が子どもに環境問題を教えていた。

考察

環境問題は説明を前面に出すよりも遊びの延長として親子で体験できる形が効果的である。

（2）パンフレット

結果

・見やすさや実用的な情報が評価された。

・新たな施設の認知や実際の来訪に繋がった。

考察

体験内容が想像しやすいデザインと実用的な情報の提示により、パンフレットは行動を促すうえで効果的であった。

5，今後について

・イベントは一過性だが、体験を通して環境問題に触れることで、参加者の記憶や行動に影響を与えた可能性がある。

・パンフレットは在庫がある限り設置され、図書館には寄贈資料として常設されている。